

全医労保育所ニュース

国立病院機構として 院内保育所を一部署として位置づけ 保育所職員の処遇を改善せよ

全医労は第43回保育所会議の前日6月6日に機構本部要請を行いました。日本医労連煙崎中央執行委員を先頭に地方協代表・本部12人が参加し、看護師等の確保対策と院内保育所の充実、処遇の改善等を訴えました。

病院職員が働き続けるために

機構本部要請は、日本医労連・煙崎中央執行委員長、全医労・瀬谷副委員長、同・中丸

副委員長を先頭に、地方協代表を含む12人が参加しました。

機構側は、大竹職員厚生部職員課労務専門職以下9人が対応。

冒頭、私たちがとりくんだ国立病院機構理事長宛て要求署名5,856筆を磯村さん(大阪医セン)と平松さん(南岡山)が「私たちの切実な思いが詰まっている署名です」と提出。

煙崎中執の要請の趣旨説明のあと、一括回答を受け、続いて参加者から医師・看護師

等の確保対策と院内保育所の充実、保育所職員の処遇改善等を訴えました。

機構は例年通り「院内保育所は第二共済組合の福祉事業の一環として設置・運営しており、機構に決定権限はない。労働条件については委託しているピジョンが判断することだ」と機械的に回答。

全医労は「制度や法理はわかるが、実態として病院内に院内保育所があり、職員の子どもを預け、病院が成り立っている。院内保育所は病院にとって重要な位置づけにあることは共通認識のはずだ。門前払いのような回答は辞めていただきたい」と述べた上で、各地方

協代表から諸々訴えました。

保育充実のために賃金を保障せよ

「賃金が安い。委託料が少なく、赤字は病院側が負担している。職員はみんな不安を抱えている」栃木の下野

新聞の記事では給料が見合わないため、保育士資格を持つていても違う職種を希望すると厚労省の調査が出ている「医師・看護師確保と同時に保育士も増員を働きかけてほしい」

「透析室勤務のお母さんたちの行事参加を配慮してあげてほしい」「仕事と子育ての両立支援がすすめられているが、母親の厳しい職場実態が保育時間延長など保育所にも反映されている」「保育所職員増員に対し病院がブレーキをかけることのないよう指導せよ」と



“切実な声を聞いて下さい”署名を手渡し

施設が保育所運営に携わるよう指導せよ

機構は「一般事業実行計画に基づき仕事と子育て両立支援プログラムのパッケージも改定した。管理者も含め意識改革をしていただきたいと思っています」「運営は第二共済組合、労働条件はピジョンだ。ただ皆さんの話は第二共済組合にも報告する」と回答。全医労はピジョンや第二共済に丸投げではなく、機構本部として責任をもって指導せよと迫りました。



東海北陸地方協代表・田中さん訴える。
「毎年、機構要請に参加しています。継続することが大事」

設備費を確保せよ

さらに全医労は「園舎の建て替えは病院の自主的責任で行えと言われている。病院にはたらしかけてほしい」「各病院では保育所が直接事務方に折衝し、砂場の整備やクーラーなどの修理等を申し出ている。早めに対応するよう機構として指導せよ」「パソコンに不具合があっても変えられない。給与や保育料にも関わってくるので、きちんと指導してほしい

い」「運営費交付金の中にあつた設備費を再度要求せよ」と求めました。機構は「建て替え整備については経営状況をしながらも改善計画の知恵を出し合い整備を進めていきたいと考えている」「パソコンについてはセキュリティ上の問題もあるが、早急に対応するよう第二共済に伝える」「運営費交付金については機構は対象外」「長期貸付金の対象は4施設だ」

(注)と回答しました。

自治体補助金獲得に向けて知恵を出せ

保育料は各所属所長(病院長)が決定権をもっており、保育料を下げれば病院の負担増で現

状の運営形態を維持することが難しくなることに変わり、自治体補助金について機構に質しました。

機構は「保育所の設置自体が病院の直営ではないため、対象外となっている。国からの補助金は縛りがあり、単独で事業を行っているところのみ補助されているが、現在は制限がかかっている。各県では掛け合っていることは聞いている」と回答。これに対し、全医

労は保育所運営が少しでも円滑にいくよう知恵を出してほしいと要望しました。

実効ある災害対策訓練マニュアルを

「意味のある災害対策訓練マニュアル作りをしたいと管理課長から話があった。引き続き保育所を病院の一部署として災害対策訓練

の中に含め、計画を立てて指導するようはたらしかけよ」「訓練内容はまちまちだ。病院と応援体制を組むなど職員の子どもをあくまで責任の重さを考え指導せよ」「災害対策マニュアル・システム体系をしっかりと作れ」と訴えました。

最後に、瀬谷副委員長から「第二共済組合の福利厚生事業としてピジョンに委託している院内保育所ではあるが、医師・看護師確保と定着をさせるためにもお互いに認識を一致させることが重要だ。保育人員配置、賃金の問題では施設の権限は大きい。機構としても手立てせよ。建て替え整備や危険な個所等にも目配りをしながら施設で対処するよう指導し、災害訓練についても体系を作るように」とまとめの要請を行い



「来年もがんばろう！」
要請後、今年も機構本部前で記念撮影し、誓い合いました。

ました。機構は「コメントは差し控える」としながらも「周知に努める」と回答。「私たちの要求が少しでも実現するよう機構としても努力せよ」と念を押し要請を終了しました。

参加者は要請後、機構本部前で記念撮影し「訴えたことは議事録として施設管理者の元に届けられる。一歩一歩改善をめざしてがんばろう」と誓い合いま

した。

(注) 保育所の新築・増改築の資金、整備で必要なものは、機構本部の承認を得て長期貸付金がおりにくくなっています。2014年度貸付金対象の4施設については問い合わせ中です。



ほっこり温かい集会。 参加して良かった♪

2014.9.6 関信地方協保育所交流集会



「大人でも楽しめる折り紙に感激」「早速保育に活かしたい」
日本折り紙協会の北嶋愛子さんの講習会（関信保育所集会）

2014年9月6日、全医労会館にて関信地方協保育所交流集会が開催されました。

それぞれあいさつのあと、基調報告を受け、午後からは「いろいろ折り紙講習会」、「分散会」と盛りだくさん。参加者は28名と少なかったのですが、内容の濃い温かみのある集会となりました。

所部会事務局長の深津さん（相模原）の基調報告は、院内保育所の歴史、全医労とピジョンとの関係、積み上げてきた労働条件と今後の運動について大変わかりやすい提案でした。

つづく折り紙師範の北嶋愛子さんの折り紙講習会は大好評。新聞紙がお話に合わせて変化する様子に「わあ〜！」と感嘆の声をあげたり、意外に簡単な折り方なのに大人でも遊べる動くカエルやバツタ、小鳥の折り紙に「楽しい！遊べる！」と評判でした。

美味しいお弁当やお菓子も食べて、和やかな雰囲気。分散会では各保育所の保育の悩み、ピジョンへの要求内容について、親との対応などを話し合い、短い時間ながらも交流できました。

参加者からは「ピジ

ョンとの関係がわかってスッキリした」「楽しく色々勉強できた」「ほっこり温かい集会だった。参加して良かった」と感想が出され、会長の枝野さん（宇都宮）が「組織過半数を突破、ナースウェブ集会で保育所もアピール、支部との連携などで私たちの院内保育所をより良くしよう」とまとめました。

最後に、保育所の仲間8人を連れて参加した園長の辻さん（東京病院）から「次回もっと参加が増えるよう、来て良かったと思えるよう、この集会を工夫していきたい」と閉会のあいさつがあり、全員の記念撮影で散会となりました。

恒例の枝野会長とじやんけん大会では優勝者に景品のお楽しみもあり、楽しい交流集会でした。

すべての支部で「院内保育所の 存続・拡充を求める要求書」を提出しよう！

医師・看護師の人材確保、仕事と子育ての両立支援、保育の質の向上を求める立場から、「院内保育所の存続・拡充を求める要求書」の提出をすべての保育所設置支部がとりくみます。（指示第5号参照）10月末までに所属所長（病院長）宛てに提出しましょう！

指示文書と要求書のひな型は、支部と保育所に送付します。ぜひ支部と声をかけ合って、要求内容を話し合い、病院長に提出してください。

